

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力を伝えています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人



新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

<https://shinkenko.jp>



次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十五年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

信仰即正義

まず宗教とは何ぞやといえば、言うまでもなく宗教学論や宗教哲学を難しく説く事ではなく、帰するところ正しい人間を造る事であって、それ以外の何物でもない。しかし口で言えばそれだけの事ではなはだ簡単であるが、実際にその簡単な事がとても難しいのである。論語に“言うは易く行うは難し”といふ言葉があるが、全くその通りである。としたら、何でそのように難しいかを書いてみよう。

以上によつてみると、その結論としては、悪に打勝つ力ある宗教が現れなくてはならない。それによってのみ、より善い社会も幸福な平和世界も生まれるのである。我等が唱える信仰即正義とは、これを言うのである。

私の様子を見ていた両親は、以前に淨靈を受けて体が良くなつた体験があつたので、私にも「淨靈を受けてみては…」と話してくれました。

私は早速、バネパ支部へ行き、淨靈を受けることにしました。最初の頃は大きな変化がなかつたのですが、毎日淨靈を受けていると、徐々に痛みが落ち着いていきました。すると、一ヶ月後には痛みが楽になり、頭がスッキリしました。本当に不思議でした。

それからというもの、淨靈を受けることが当たり前となりました。そして二〇一九年八月十七日、私は三十三歳で入会し、その後も淨靈を続けています。

淨靈を受けますと、体の状態が良くなるだけでなく、気持ちも楽になつて安心出来ます。この素晴らしい淨靈を、多くの方に知つてもらいたいです。

明主様、誠に有難うございました。

浄靈体験記 2ページ

- 救われる度に驚きと感謝…
- 浄靈を知り五十二年感謝で過ごす日々…

方が面白いとされている。右のような考え方が何百何千年も続いて来たので、遂に人間処世の常識とさえなつてしまつたのである。昔からこれに対し、法律や道徳教育等によつて改善しようと骨折つては来たが、その効果ははなはだ微々たるものである。とすれば、どうしても宗教よりほかに方法のない事は今更いうまでもない。しかし、単に宗教といつてもその力の強弱が大きいに関係する。それは力の足りない宗教では、どうしても悪に勝つ事が出来ない。宗教信者でありながら非行に打ち勝ち得ないものも、そのためである。いかなる宗教でも、本当に正義を貫く信者は寥々たる有様である。

痛み消えて頭がスッキリ…

バネパ支部 ディパク・シールバカル (39)



コメカミ、延髓の痛み

ネパール

日の出

(韓国岳から見た高千穂と日の出)



淨靈によつて病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

ノミ・腕の痛み

救われる度に
驚きと感謝…

長崎支部
田上義高
(77)



私は、きっと倉庫から虫を持ち帰ったのだと思いましたので、薬局で駆除するスプレーを購入しようと思い、薬剤師の方に相談しました。すると、それはノミが原因だろう…ということです、足を見せるときっぱりノミから刺されています…とのことでした。症状は通常、早くて一週間、長いと一ヶ月以上は痒みがあるとのことでした。そんな中、私は五日間で楽に治りました、とても驚くと共に明主様に心より感謝いたしました。

◇
昨年の八月二十日にも、私はすごい

体验をしました。

私は大工という仕事の関係上、首肩や腕等、体をよく使っています。現在七十七歳ですが、人に喜んで欲しい気持ちから、少しづつではありますけれど仕事を続けています。普段から体を酷使していますが、それでも体を動かせますので、感謝の気持ちで仕事をしております。

◇

令和五年九月のことです。翌日の仕事の準備をしておこうと、倉庫で材料をトラックに積み込んでいました。その時、何か体の中でチカッとしたのですが、特別変化はなかつたので、準備

を終え自宅へ戻りました。しかし、その晩、身体に痒みが始めました。次の日の夜には全身の痒みで、夜中起きて見ると、小さな虫が沢山繁殖していました。虫を殺しますと血を吸っていました。虫駆除をしている状態でした。

翌日、長崎支部へ淨靈を受けに行きました。すると、首から足首まで赤い斑点がびっしりと付いている…とのことでした。その後も続けて淨靈を受けますと、四日目の夜はよく休むことが出来ました。五日目になると、赤い斑点はかなり薄くなつて枯れ始め、それから痒みが出ることはありませんでした。

私は、きっと倉庫から虫を持ち帰ったのだと思いましたので、薬局で駆除するスプレーを購入しようと思い、薬剤師の方に相談しました。すると、それはノミが原因だろう…ということです、足を見せるときっぱりノミから刺されています…とのことでした。症状は通常、早くて一週間、長いと一ヶ月以上は痒みがあるとのことでした。そんな中、私は五日間で楽に治りました、とても驚くと共に明主様に心より感謝いたしました。

普段通りに動かせることに、大きな喜びと大変な有り難さを感じました。私は新健康協会に御縁をいただき五十年以上が経つております。今までにもたくさんのおかげをいただいており、明主様に心より感謝しております。おかげ様で、翌日は仕事に行くことが出来、腕のことを気にせずに作業が出来ました。午後から支部に伺い、感謝御礼を申し上げました。右肩に出来ていたコブも小さくなつており、腕も

が出来、腕のことを気にせずに作業が出来ました。一時間半程前までは全く上がらなかつたため、こんな奇跡とも言える展開に驚いてしまいました。

淨靈

淨靈は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

淨靈によって魂は清浄化され、肉体が健康になつてきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

(長崎県長崎市)

自然農法

自然農法体験談



松山支部
中田伸二(63)

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

私は、愛媛県松山市と久万高原町で、野菜を中心して自然農法を実行しています。以前は市の団体職員として勤務していましたが、平成10年、私が36歳の時に亡くなつた義母から家庭菜園を引き継いだことがきっかけで、農業に興味を持つようになりました。しかし、それまで私は自分で野菜を育てた経験はありませんでした。

以前から私は、明主様が発見されて推し進められた自然農法や、ここ愛媛の地で自然農法を実践されていた方にも深く共感していましたので、農薬・肥料を使わずに家庭菜園をすることに決めて畑作を始めました。直接土に触れることにより、農業の楽しさや難しさといったものに触れていました。

その数年後、農業を仕事としてやってみたい

：という思いが強くなり、平成13年、39歳からは久万高原町の親戚の休耕田を借りて農業を始めました。

最初の一年間は、つるはしで開墾していく作業で、畠らしい状態にまで再生するのが大仕事でした。現在は、自然農法を始めて20年になり、松山市35アール（約1050坪）、久万高原町95アール（約2850坪）の合計130アール（約3900坪）の面積で、野菜を中心に作つ

ています。中でも土作りは試行錯誤の連続で、当初はあちこちから枯れ葉や枯れ草を集めて堆肥を作つては畑に入れていました。そんな時、植物性堆肥さえも使用しない農法に取り組んでいた方の講演会を聴きました。その中で、「畑の外から堆肥を持ち込まず、畑の中で循環するように土作りをしている」という話を聴き、「これだ！」と思つた私は、それからはその方法に切り替えました。今ではナス、小豆、大根、レタス等、様々な野菜は順調に育ち、収量も上がっています。

今、農業を始め世界は激動の世の中です。日本の農業従事者の平均年齢は69歳となつており、あと10年もしないうちに作り手が激減し食糧生産が危機的な状況となります。日本の主食である米が不足して高騰し、ゲノム編集や遺伝子組み換え食品が蔓延すると、「食べるものがあつても食べられない時代」がやってきました。

今こそ、明主様が提唱されている究極の自然農法が普及していく必要があると考えています。



中田さんの畑



美の世界

伊東深水 《早春》

膨らむつぼみが春の訪れを知らせる梅の木。木の根元には日本髪に和服姿の女性がかがみ込み、路の葉でしょうか、新芽に手を触っています。どことなく雪の残る雰囲気を感じるのは、若菜を摘んでいるような姿に万葉集の句「明日よりは春菜摘まむ」と標めし野に昨日も今日も雪は降りつつ」を、観る側が勝手に重ねてしまうからかもしれません。女性が黒地に大きめの柄の入ったコートとショールを羽織り、真冬の外出の装いでいることも、まだまだ冷え込む空気を伝えているようです。

この『早春』を描いた伊東深水（一八九八—一九七二）は、東京生まれの日本画家です。十三歳で鏑木清方に師事し、その影響から美人画を描き始め、日常のふとしたしぐさを切り取つた情緒豊かな作風で大変人気を博しました。画業の幅は広くに渡り、浮世絵版画の復興をめざす新版画運動に参加するなど木版画にのこした足跡も大きいものです。深水ははじめ、労働者、乞食、新聞配達などを描いて制作する姿勢が伺え、風俗画である浮世絵の本質を実践していたといえます。

そもそも清方を師とし、美人画を手がけたということは歌川派の浮世絵の系統をひくということに他なりません。そのなかでも深水は、浮世絵とは浮世

あるいは理想上の美人というよりも、自分の生きた時代の女性像を描きました。しかし「絵にする」ということは、現実をそのまま切り取るだけで成り立つものではありません。たとえば今では誰でも簡単に写真を撮ることができます。誰もが観る人の心に残る風景を収めることができるのはあります。深水は同時代の生活者を透徹した目で捉えつつ、そこに立ち上る感情を最も効果的な方法で表してきました。女性が身につけるもの一つ、化粧一つとっても洒落た雰囲気を醸し出すことができ、女性の何気ない動きや振る舞いの選び方が粹なもの、深水が趣味人で時代の美意識や流行に敏感であったことが働いているでしょう。まさに現実の中に理想を見出し、理想の中に現実を反映するという技術を浮世絵の系譜から学んだ人だと言えるのではないかと思します。

解説 松田愛子

晴明会館

「ゆめのうき世に」後期展

期間：令和8年1月6日（火）～5月17日（日）

※晴明会館お問い合わせ（092）661-1535